Market Flash

発表日:2020 年4月6日(月)

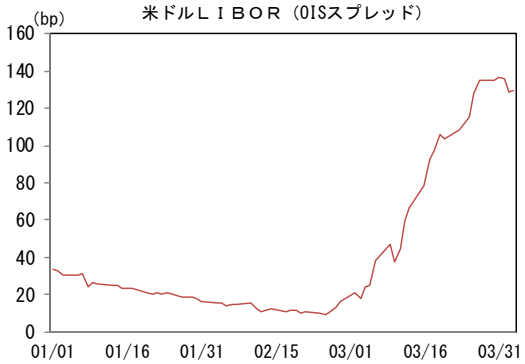
・VIX50 割れ　象徴的な政策効果
・雇用統計　誤差の範囲

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト　藤代 宏一(TEL:03-5221-4523)

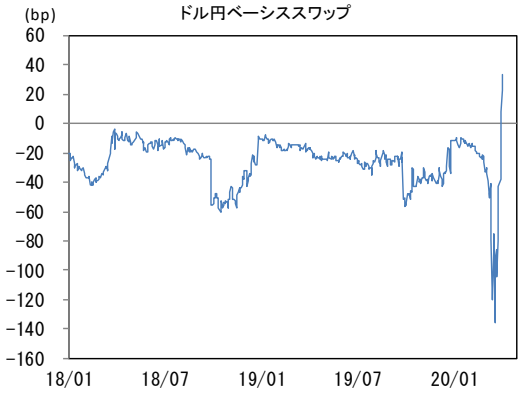
・日経平均の 20,000 円定着には、６ヶ月程度の時間を要するだろう。
・USD/JPY は、先行き 12 ヶ月 105 程度で推移しよう。
・日銀は現在の YCC を長期にわたって維持するだろう。
・FED はゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

＜＃ＶＩＸ低下＃雇用統計＃ＬＩＢＯＲ＞

・前日の米国株は下落。経済対策の出尽くし感が漂うなか、米雇用統計を受け改めて米国経済の打撃が意識された。他方、原油価格の安定、欧州における新型コロナウィルスの感染ペース鈍化などが下支えとなり、主要３指数の下落率は1.5%～1.7%と小幅に留まった。ＶＩＸは46.8へと低下し、３月10日以来初めて50を割れた。米金利カーブは概ね横ばい。10年は0.599%（▲0.2bp）、30年は1.21%（▲3.0bp）へと低下。短期金融市場ではLIBOR（OISスプレッド）が小幅上昇。米ドル流動性は落ち着きつつあるものの、金融システムは依然として強い緊張状態にある。他方、USD/JPYのベーシス・スワップは＋34へとプラス幅拡大（ドル調達コストは低下）。商品は、ＷＴＩ原油が＋28.34ﾄﾞﾙ（＋3.02ﾄﾞﾙ）、金が1633.7ﾄﾞﾙ（＋8.5ﾄﾞﾙ）、銅が4824.0ﾄﾞﾙ（▲55.5ﾄﾞﾙ）とまちまち。クレジット市場ではハイイールド債が続落。原油価格安定にもかかわらず、素直に買われる展開には至らなかった。

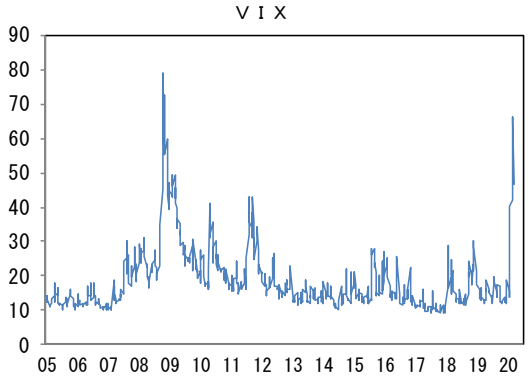


（備考）Refinitivにより作成 3ヶ月



・３日発表の３月米雇用統計ＮＦＰは70万人減少と市場予想を大幅に下回った。もっとも、過去２週間に累積1000万件ほど申請された失業保険件数との比較でいえば、この程度の下振れは誤差の範囲と言える。ＮＦＰが垂直落下するのは４月データになる。

・他方、ここ数日僅かにみられる明るい兆候は米国株のボラティリティ低下。３日は主要３指数が1.5%～1.7%の下落に収まり、ＶＩＸは50を割った。依然として歴史的高水準にあることに変わりはなく、かつ、新型コロナウィルスの被害状況次第で再度急上昇する可能性があるとはいえ、ひとまずリーマンショック時の水準を突き抜ける事態は避けられたようにみえる。米政府が前例の無い規模の大胆な景気対策を打ち出し、通常時では考えられない救済策が実施されたことが効いたとみられる。これによってパニック売りが収まり、投資家は景気悪化見合いのポジション構築ができているのだろう。人間が起こした災害とも言うべきリーマンショックは、政策対応が遅れたことで危機が増幅された。しかしながら、その一方で今回の危機は迅速な政策対応が奏功しており、金融市場の安定に貢献している。ここ数日のＶＩＸ低下は政策効果の一つとみて良いだろう。



（備考）Refinitivにより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。